

21

確率：確率  
 ことがらの起こりやすさ、  
 確率とその求め方

年 組 番  
 名前

/ 13 問

知 ① 確率

結果が偶然ぐうぜんに左右される実験や観察を行うとき、あることがらが起こると期待される程度を

数(割合)で表したものを、そのことがらの起こる確率という。

コインを投げて表が出ることと裏が出ることのように、同じ程度に期待できる場合、同様に

確からしいといい、このようなときは計算によって確率が求められる。

起こりうる結果が全部で  $n$  通り、ことがら  $A$  が起こるのが  $a$  通りのとき、 $A$  の起こる確率  $p$  は、

$$p = \frac{a}{n} \text{ となる。}$$

② 確率の範囲

かならず起こることがらの確率は 1，決して起こらないことがらの確率は 0

なので、あることがらの起こる確率  $p$  は、つねに  $0 \leq p \leq 1$  の範囲にある。

技 1 1つのさいころを投げるとき、次の問いに答えなさい。

(1) さいころの目の出方は全部で何通りありますか。

● 1の目が出る場合、2の目が出る場合、3の目が出る場合、  
 ……だから、6通りである。 ( 6 ) 通り

(2) 1の目か6の目が出る場合は何通りになりますか。

( 2 ) 通り

(3) 1の目か6の目が出る確率を求めなさい。

● 全体が6通りで、1の目か6の目が出る場合が2通りなので、  
 $\frac{2}{6} = \frac{1}{3}$  となる。 (  $\frac{1}{3}$  )

技 2 1から12までの数を1つずつ記入した12枚のカードがあります。このカードをよくきって、裏返しにして1枚ひくとき、カードに書かれた数が3の倍数である確率を求めなさい。

● 3の倍数になるのは、3、6、9、12の4通り。  
 $\frac{4}{12} = \frac{1}{3}$  (  $\frac{1}{3}$  )

技 3 2枚の10円硬貨を投げるとき、2枚とも裏になる確率を求めなさい。

● 10円硬貨を、硬貨①、硬貨②とすると、  
 右の表のようになる。  
 よって、 $\frac{1}{4}$  である。

硬貨①	硬貨②
表	表
表	裏
裏	表
裏	裏

(  $\frac{1}{4}$  )